

庁内実習まとめ

本人からの声、支援機関からの声、推薦機関からの声をそれぞれ振り返る

本人からの声 . . . 初めて参加する実習で「緊張した」という回答が多かったが、「緊張した」に続いて、「集中できた」「頑張れた」「チームワークの練習になった」など、実習者が目標を持ち実習に取り組み、自分に必要な「自信」や「経験」などを手にした様子が見受けられた。
以前庁内実習に参加された方もいて、「前年度の経験が役立った」と感想があり、重ねて取り組むことが就労へのステップアップに繋がると感じた。

支援機関からの声 . . . 事前の作業の切り出しでは、作業の内容や量、難易度などどれほどのものを用意すれば良いのか判断が難しかったが、事前の顔合わせで実習者のことを知ることができたことで、以降は作業の設定がしやすかった。
作業量が足りなかった時にどのような対応をすればよいか迷った。(他支援機関では急遽作業を追加したところもあった。)
受け入れる側として、実習生の特性を把握し、事前に作業手順の伝え方をシュミレーションすることが大切だと思った。

※顔合わせから作業設定の期間に余裕があるほうが、本人の特性や力に応じた作業が設定できるように思う。

今後、行政の中で受け入れを広げていこうとする時には、作業の切り出しや伝え方について、この5年の経験から得た「How to」のようなものがあれば受け入れ側の不安軽減、については受け入れ拡大につながるように思う。

推薦機関からの声 . . . 実際の仕事の場で普段見ることの少ない「自分で考えて行動する」「主体的な報・連・相」の姿を見ることができた。

実習までの準備期間も「生活の自己管理」や「緊張への向き合い方」など、必要な課題に取り組むことができた。

もう少し実践的な物や難易度の高いものがあったとしても良いと感じた。

次年度への要望 . . . 図書館や他の課へと庁内実習の幅を拡げていきたい。

作業の切り出しや作業の伝え方など「How to」のようなものを準備したい。

障がいのある方の仕事をもっとたくさんの方に知ってもらいたい。

障がいのある方の力を社会にアピールしたい。

もっとたくさんの方の仕事に挑戦させてほしい。